

【調査結果の概要】

1 農産物価格指数（令和2年＝100）

令和5年の農産物価格指数（総合価格指数（以下「総合」という。））は108.6で、前年に比べ6.3%上昇した。

これは、鶏卵、野菜等の価格が上昇したことによる。

2 農業生産資材価格指数（令和2年＝100）

令和5年の農業生産資材価格指数（総合）は121.3で、前年に比べ4.0%上昇した。

これは、畜産用動物等の価格が低下したものの、飼料、肥料等の価格が上昇したことによる。

表1 令和5年 農作物価指数

令和2年＝100					
区 分	価格指数	対前年 騰落率	区 分	価格指数	対前年 騰落率
農産物（総合）	108.6	% 6.3	農業生産資材（総合）	121.3	% 4.0
うち米	90.2	10.0	うち畜産用動物	88.3	△ 8.2
野菜	113.3	6.7	肥料	147.0	12.4
鶏卵	178.9	39.0	飼料	145.7	5.6
生乳	109.9	10.0	農業薬剤	112.9	9.7

注：調査は令和5年1月から12月まで行い、価格指数は令和5年平均価格を令和2年平均価格で除したものである。

3 農業交易条件指数

農業交易条件指数は89.5となり、前年に比べ2.1%上昇した。

表2 農業交易条件指数の推移

令和2年＝100							
区 分	平成30年	令和元	2	3	4	5	対前年 騰落率 (令和5年/ 令和4年)
農産物価格指数（総合）①	100.7	98.5	100.0	100.8	102.2	108.6	% 6.3
農業生産資材価格指数（総合）②	98.9	100.1	100.0	106.7	116.6	121.3	4.0
農業交易条件指数 ① ÷ ② × 100	101.8	98.4	100.0	94.5	87.7	89.5	2.1

注：農業交易条件指数とは、生産者の収益環境の変化を示す指標として指数化したものであり、農業交易条件指数の上昇は生産者の経営環境の改善を意味する。

◎(参考)関連データ

関連指標の推移

区 分	単位	平成30年	令和元	2	3	4	5
米の相対取引価格	円/60kg	15,688	15,716	14,529	12,804	13,844	15,298
民間流通における6月末在庫	万 t	190	189	200	218	218	197
ねぎ卸売数量	千 t	263	265	256	249	252	243
キャベツ卸売数量	千 t	1,294	1,279	1,219	1,257	1,184	1,137
鶏卵生産量	千 t	2,628	2,640	2,633	2,574	2,597	2,438
生乳生産量	千 t	7,289	7,314	7,438	7,592	7,617	7,299
肉用子牛（黒毛和種）取引価格	千円/頭	762	766	673	751	669	569
配合飼料工場渡価格	円/ t	66,076	66,865	66,586	77,378	93,316	98,020
為替レート（米ドル/円）	円	110.39	109.01	106.78	109.80	131.38	140.48
原油・粗油輸入価格	円/KL	50,633	45,835	31,820	48,013	84,657	76,473

資料： 米の相対取引価格は、農林水産省農産局「米の相対取引価格・数量」
民間流通における6月末在庫は、農林水産省農産局「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」
ねぎ卸売数量及びキャベツ卸売数量は、農林水産省統計部「青果物卸売市場調査」
鶏卵生産量は農林水産省統計部「畜産物流通調査」
生乳生産量は、農林水産省統計部「牛乳乳製品統計調査」
肉用子牛取引価格は、（独）農畜産業振興機構「肉用子牛取引情報」
配合飼料工場渡価格は、（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」より算出
為替レートは、日本銀行資料より算出
原油・粗油輸入価格は、財務省「貿易統計」より算出

- 注：1 米の相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月までの年産平均価格であり、農業物価指数の調査期間1月から12月までとずれがある。
2 米の相対取引価格の令和5年産は、令和6年5月速報値である。
3 民間流通における6月末在庫は、うるち玄米及びもち玄米を合算した値である。
4 配合飼料工場渡価格は、全畜種加重平均（バラ、袋）である。
5 為替レートは、東京インターバンク相場スポット中心相場の各月中平均の単純平均である。
6 原油・粗油輸入価格は、CIF価格（保険料、運賃込み価格）である。

◎ 累年データ

図1 農業物価指数の推移(令和2年=100)

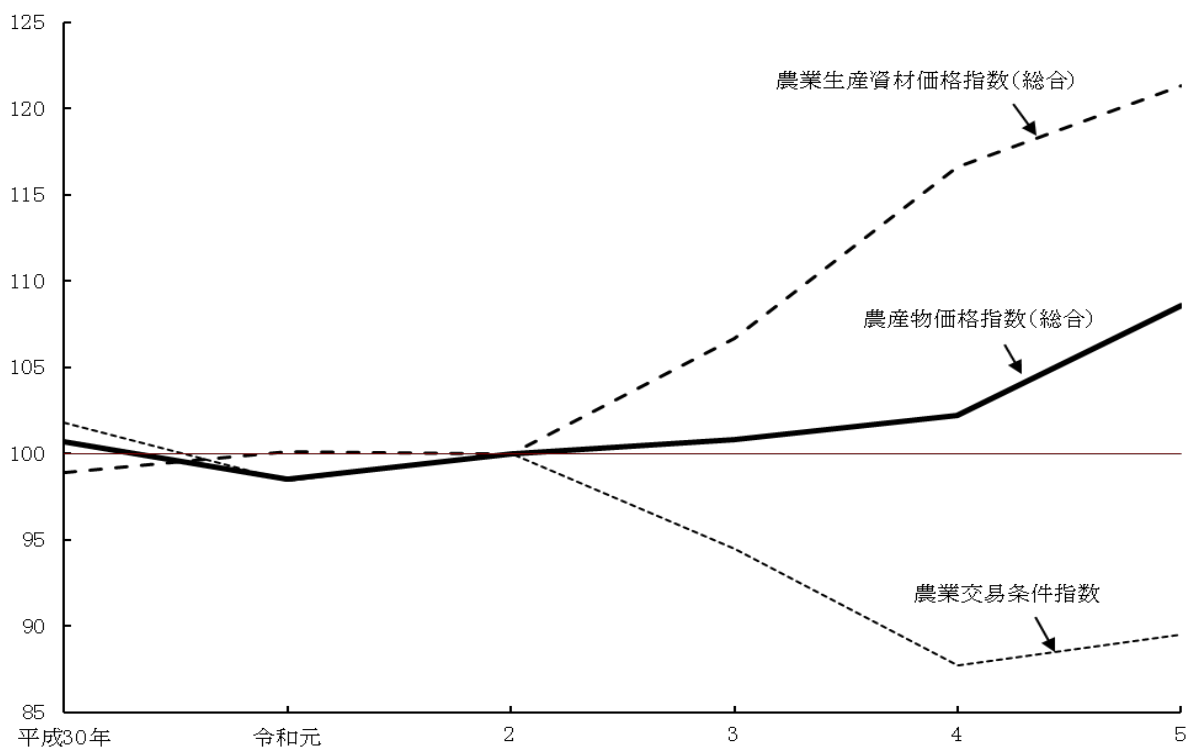


図2 農産物価格指数(総合)の月別推移(直近3年間)(令和2年=100)

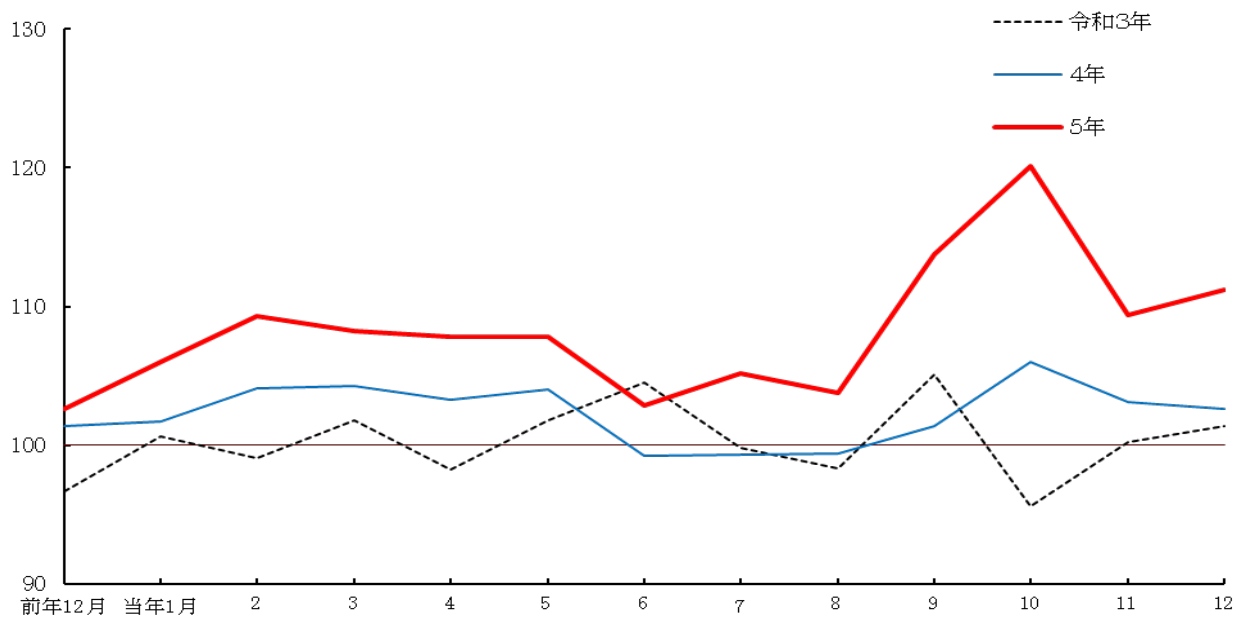


図3 主な農産物の類別・月別価格指数(直近3年間)(令和2年=100)

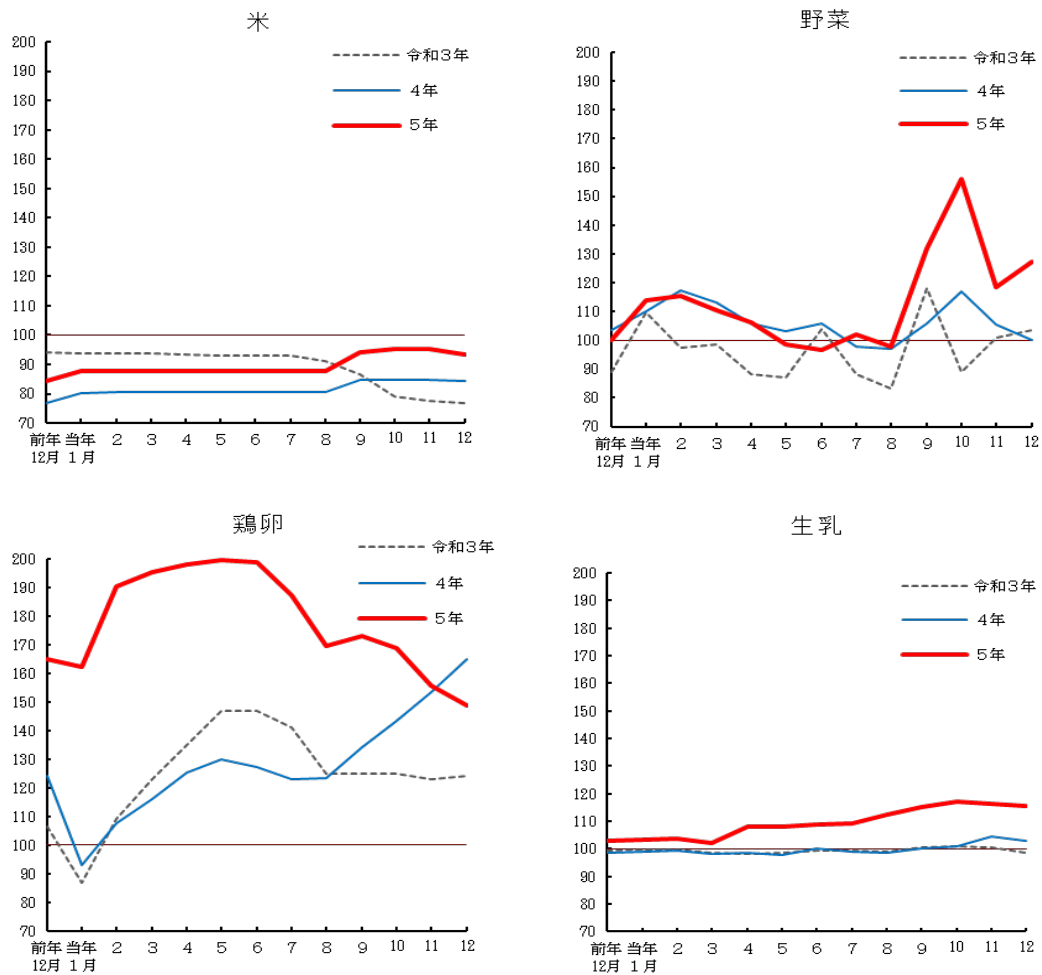


図4 農業生産資材価格指数(総合)の月別推移(直近3年間)(令和2年=100)

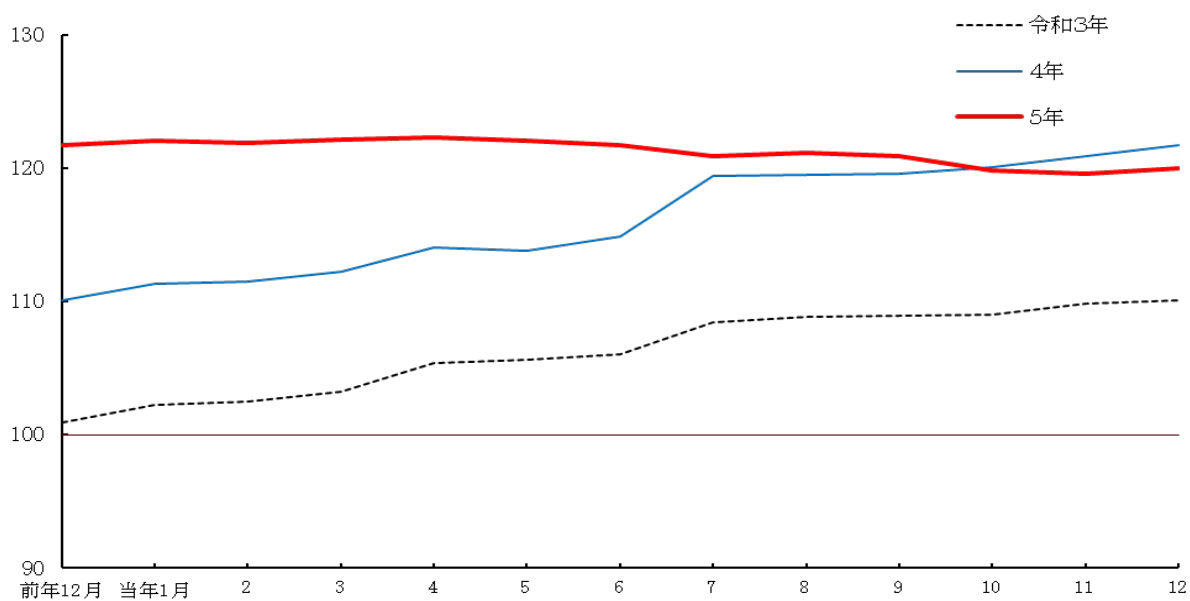
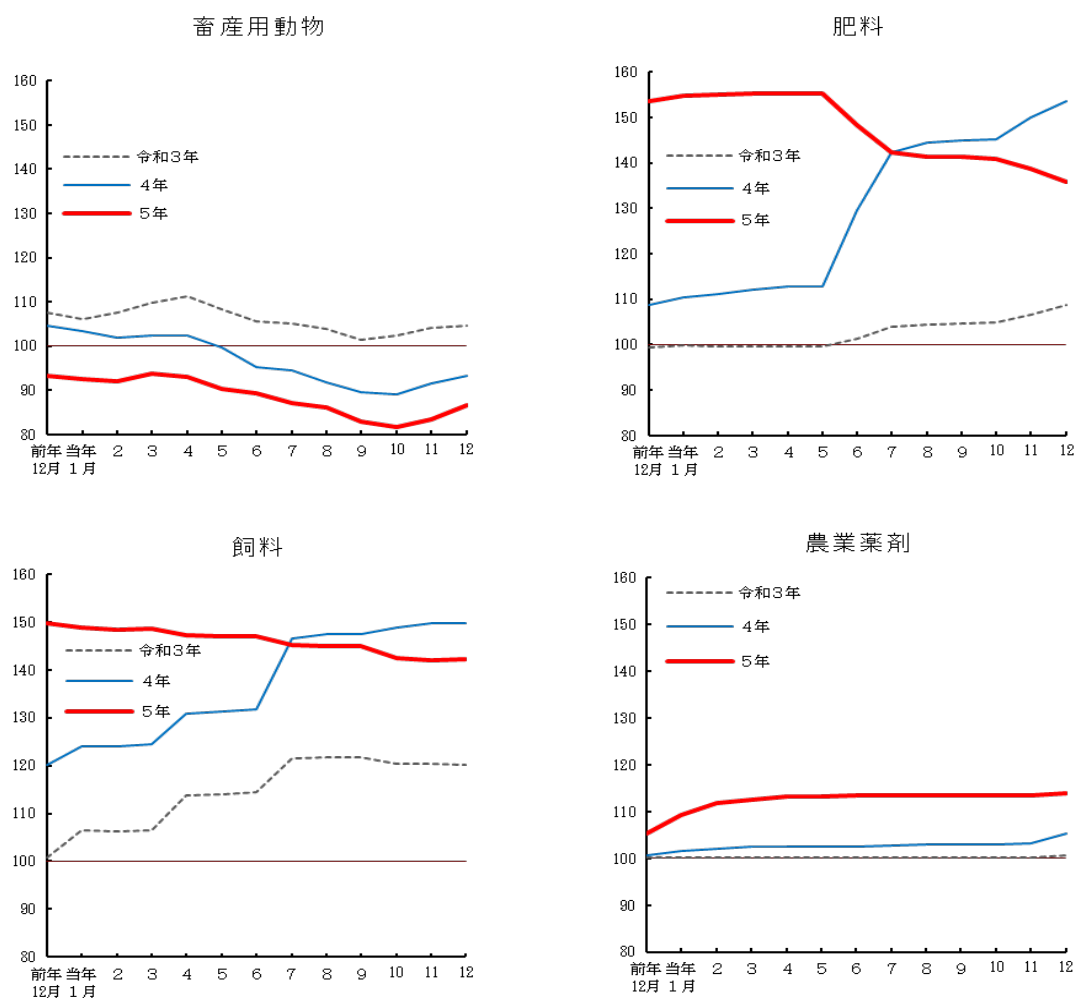


図5 主な農業生産資材の類別・月別価格指数(直近3年間)(令和2年=100)



【調査結果】

1 農産物価格指数

農産物価格指数（総合）は108.6となり、前年に比べ6.3%上昇した。

これは、鶏卵、野菜等の価格が上昇したことによる。

主な類別の指数の動向についてみると、次のとおりである。

- (1) 米は90.2で前年に比べ10.0%上昇した。
これは、産地の作付け転換により需給が改善したこと等による。
- (2) 野菜は113.3で前年に比べ6.7%上昇した。
これは、ねぎ、キャベツ等で夏季の高温の影響により、出荷量が減少したこと等による。
- (3) 鶏卵は178.9で前年に比べ39.0%上昇した。
これは、鳥インフルエンザや飼料価格高騰の影響により、出荷量が減少したこと等による。
- (4) 生乳は109.9で前年に比べ10.0%上昇した。
これは、飼料価格高騰等を背景とした生産者団体と乳業メーカーとの交渉の結果等による。

表3 農産物の年次別価格指数及び対前年騰落率

令和2年=100

区 分	年次別価格指数						対前年騰落率					寄与度
	平成30年	令和元	2	3	4	5	令和元年	2	3	4	5	
農産物（総合）	100.7	98.5	100.0	100.8	102.2	108.6	△ 2.2	1.5	0.8	1.4	6.3	
うち米	101.2	101.7	100.0	88.6	82.0	90.2	0.5	△ 1.7	△11.4	△ 7.4	10.0	1.26
麦	99.0	96.1	100.0	106.1	118.4	106.9	△ 2.9	4.1	6.1	11.6	△ 9.7	△ 0.09
雑穀	206.4	156.1	100.0	126.0	161.6	193.3	△24.4	△35.9	26.0	28.3	19.6	0.02
豆	89.5	98.3	100.0	99.8	105.0	104.3	9.8	1.7	△ 0.2	5.2	△ 0.7	△ 0.01
いも	78.9	82.2	100.0	113.9	103.7	99.8	4.2	21.7	13.9	△ 9.0	△ 3.8	△ 0.10
野菜	108.8	95.9	100.0	96.7	106.2	113.3	△11.9	4.3	△ 3.3	9.8	6.7	1.71
果実	86.0	87.5	100.0	100.9	101.4	105.3	1.7	14.3	0.9	0.5	3.8	0.37
工芸農作物	108.2	104.7	100.0	113.4	113.1	111.7	△ 3.2	△ 4.5	13.4	△ 0.3	△ 1.2	△ 0.04
花き	102.7	107.9	100.0	107.8	117.2	119.1	5.1	△ 7.3	7.8	8.7	1.6	0.07
畜産物	101.7	102.2	100.0	105.6	105.3	113.4	0.5	△ 2.2	5.6	△ 0.3	7.7	3.09
うち鶏卵	105.0	98.6	100.0	125.9	128.7	178.9	△ 6.1	1.4	25.9	2.2	39.0	2.76
生乳	97.7	99.5	100.0	99.4	99.9	109.9	1.8	0.5	△ 0.6	0.5	10.0	0.94
肉畜	99.2	99.8	100.0	102.5	106.7	108.6	0.6	0.2	2.5	4.1	1.8	0.32
子畜	113.4	112.8	100.0	105.4	88.7	75.8	△ 0.5	△11.3	5.4	△15.8	△14.5	△ 0.73

注：寄与度は、令和5年の農産物価格指数（総合）の対前年騰落率に対するものである。

2 農業生産資材価格指数

農業生産資材価格指数（総合）は121.3となり、前年に比べ4.0%上昇した。

これは、畜産用動物等の価格が低下したものの、飼料、肥料等の価格が上昇したことによる。

主な類別の指数の動向についてみると、次のとおりである。

- (1) 畜産用動物は88.3で前年に比べ8.2%低下した。

これは、牛枝肉価格の低下や飼料価格の高騰により、子牛の需要が低下したこと等による。

- (2) 肥料は147.0で前年に比べ12.4%上昇した。

これは、輸入原料価格の上昇により、複合肥料等の価格が上昇したこと等による。

- (3) 飼料は145.7で前年に比べ5.6%上昇した。

これは、輸入原料価格の上昇により、配合飼料等の価格が上昇したこと等による。

- (4) 農業薬剤は112.9で前年に比べ9.7%上昇した。

これは、原材料価格や光熱費等が上昇したこと等による。

表4 農業生産資材の年次別価格指数及び対前年騰落率

令和2年=100

区 分	年次別価格指数						対前年騰落率					寄与度
	平成30年	令和元	2	3	4	5	令和元年	2	3	4	5	
							%	%	%	%	%	%
農業生産資材（総合）	98.9	100.1	100.0	106.7	116.6	121.3	1.2	△ 0.1	6.7	9.3	4.0	
うち種苗及び苗木	96.2	97.4	100.0	101.5	104.0	106.8	1.2	2.7	1.5	2.5	2.7	0.11
畜産用動物	111.2	111.5	100.0	105.9	96.2	88.3	0.3	△10.3	5.9	△ 9.2	△ 8.2	△ 0.77
肥料	95.4	99.2	100.0	102.7	130.8	147.0	4.0	0.8	2.7	27.4	12.4	1.08
飼料	98.2	99.4	100.0	115.6	138.0	145.7	1.2	0.6	15.6	19.4	5.6	1.52
農業薬剤	97.2	98.2	100.0	100.2	102.9	112.9	1.0	1.8	0.2	2.7	9.7	0.69
諸材料	93.7	96.9	100.0	100.1	103.3	112.3	3.4	3.2	0.1	3.2	8.7	0.47
光熱動力	108.0	107.8	100.0	112.3	127.3	126.9	△ 0.2	△ 7.2	12.3	13.4	△ 0.3	△ 0.03
農機具	97.9	98.4	100.0	99.9	100.9	105.0	0.5	1.6	△ 0.1	1.0	4.1	0.47
自動車・同関係料金	96.9	98.1	100.0	100.4	101.0	102.2	1.2	1.9	0.4	0.6	1.2	0.03
建築資材	96.5	98.4	100.0	113.0	133.3	137.2	2.0	1.6	13.0	18.0	2.9	0.27
農用被服	95.4	96.8	100.0	100.3	103.0	110.0	1.5	3.3	0.3	2.7	6.8	0.03
賃借料及び料金	97.1	97.9	100.0	100.8	102.3	105.0	0.8	2.1	0.8	1.5	2.6	0.15

注：寄与度は、令和5年の農業生産資材価格指数（総合）の対前年騰落率に対するものである。